

所在地：静岡市葵区春日2-12-5 A.S.Oビル2・3階
 スペース：2階・218.03㎡(66坪)／3階・193.50㎡(58坪)
 ユニット：2階に6台、3階に予防専用5台
 スタッフ：歯科医師3名、歯科麻酔医1名、歯科矯正医3名、
 歯科衛生士10名、歯科技工士1名、歯科助手1名、
 受付2名、クリーンスタッフ5名
 1日の患者数：100～110名(うちメインテナンスは50名)
 診療時間：9：00～12：00、14：00～18：30、土は9：
 00～12：30、13：30～16：30
 休診日：木・日・祝日

歯科医療の“質”を追求 熱血院長の夢は 国際水準の臨床歯科衛生士 アカデミーの設立 麻生歯科クリニック

静岡駅から東へ約1km。国道1号線沿いに「麻生歯科クリニック」があります。1階は駐車場、2階はインプラントを中心とした治療フロア、3階はシックな雰囲気の予防フロアです。歯科衛生士は10名。明るくパワフルな、院長の麻生幸男先生にうかがいました。

予防専用フロアをオープン

▶▶▶診療方針はどのようにお考えですか。

治療も予防も、「質」にこだわりたいですね。私はインプラントと自由診療の補綴をおもに行っています。補綴治療は入れたときがゴールですから、治療の結果が本当に患者さんによいことなのかと自問自答し、治療の後始末的な医療ではなく、口腔の健康を作り出し、守り育てる予防医療への方向転換を模索していました。



Yukio ASO

麻生幸男

院長の麻生幸男先生は、1971年、静岡県生まれ。1995年、明海大学歯学部卒業。同大口腔診断科勤務。大阪のインプラント専門医院に勤務後、1999年、静岡市内で開業。2004年、現在地に移転。座右の銘は「勇将の下に弱卒なし」

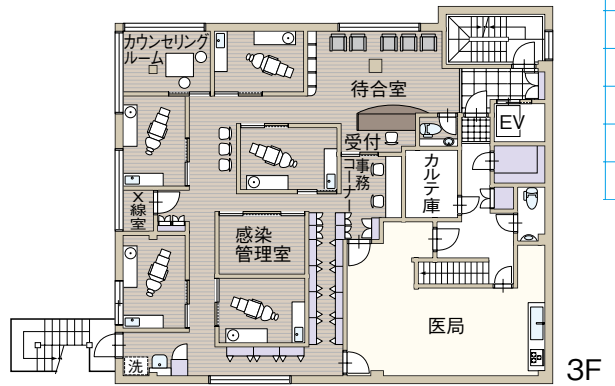
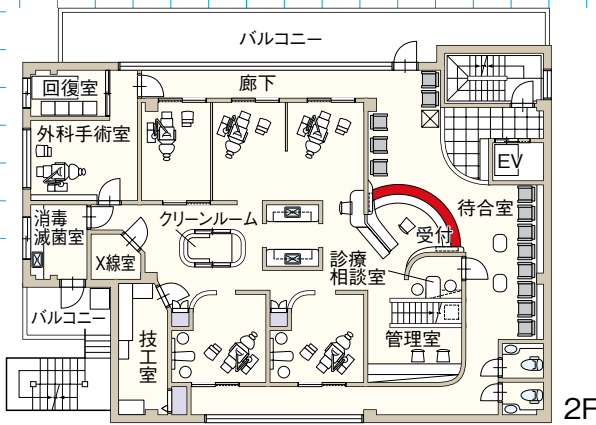
1999年に静岡市内の医療テナントビルで開業して勉強していくうちに、予防にのめりこんでいきました。予防は、歯科衛生士の協力とやる気が大事です。2年前に熊谷 崇先生(山形県・日吉歯科診療所)のオーラルフィジシャン育成コースを受けて、患者さんの生涯を通しての医療設計となるゴールは、患者さんのライフスタイルを変えていくという予防医療に大きな魅力を感じました。感じたときが、決断のときです。

▶▶▶そこで、現在地に移転されたのですか。

医療方針を変えるには、モノや設備が古い診療体系のままでは対応できません。徐々に歯科衛生士を増やして、予防診療はハードが狭いと無理ですから、4階建ての空きビルを購入し、2004年に移転しました。2階を診療フロアにして、今年1月下旬に3階の予防フロアをオープンしました。3階の内装は歯科衛生士が決めました。

▶▶▶どのような患者層ですか。

私が36歳ですから、患者さんは20～40代が多く、高齢の方は少ないです。地元の患者さんは3%ぐらい。ホームページを見てくる患者さんが約30%、あとは紹介の患者さんがほとんどで、自費と保険の割合は3対7です。



▲1階は駐車場、2階は治療フロア、3階は予防フロアになっている。受付や待合室なども分かれており、内装や雰囲気ははっきりと異なるため、患者は別の医院を訪れた感覚になる

予防歯科を導入してから、予約はメンテナンスの枠組みの中での初診というとり方をしていますので、患者さんが自分の健康に対して積極的になってくれました。家族単位、会社単位と横のつながりの患者さんが多くなっています。

予防はあくまでも医療と考えていますが、予防を自然に行えるようになれば、小細工をしなくても患者さんは増えます。われわれのめざすゴールと患者さんの歯科医療に対するイメージが重なると、自然にメンテナンスまで進みますね。

▶▶▶ 予防は採算的に合わないともいわれますが。

優秀な歯科衛生士が多数いて、100人単位で行って無駄を省けば、採算が合わないことはないと思います。メンテナンスは保険が基本ですが、定期的に行っている患者満足度アンケートでは73%の方が「自費でも続けたい」と答えてくださいましたから、手ごたえは十分に感じています。

“リハビリ”には、インプラントがいちばん

▶▶▶ インプラントに関心をもたれたきっかけは。

義歯は伝統のある治療で確実な医療だと思いますが、現代の医療ですと変わらないでよいのかという私のアンチテーゼがあり、時代に即した医療構造に変えていきたいという思いがありました。

今後の歯科医療の中核は予防になるとは思いますが、歯周病で骨が退縮したり、不適切な歯科治療の繰り返しなどで、欠損補綴が必要な患者さんは、

インプラント治療で救いたいと考えています。リハビリテーションという位置づけで、品質の高い医療を提供するにはインプラントが医療効果が高いと考えています。

年齢的に50代が歯科におけるターニングポイントだと思しますので、50代までの方は予防診療を進め、う蝕と歯周病を積極的にコントロールして最小限の侵襲で、なおかつ安定感のあるようにする。歯を失われた方でもより健やかな生活が送れるようにリハビリテーションを行う。その2本立てが品質のキーになっています。

患者さんも歯の大切さがわかれば、義歯やブリッジを入れたくなくなります。歯の負担が最小限になるようなりハビリテーションが大事です。世界的にも、今後の歯科医療はオーバートリートメントではなく、ミニマム・インターベンションが潮流になっていく気がしますね。



▲インプラント治療部の手術風景。各歯科衛生士の役割分担が決まっており、チームとして機能している



▲歯科医院では珍しい男性の受付の長谷川直行さん（2階受付）



▲広々とした2階の待合室。歯科に関する書籍も充実
◀がんばった子どもにはガチャガチャのご褒美

▶▶▶インプラントでの歯科衛生士の役割は？

外科チームは、歯科衛生士2名、歯科技工士1名、歯科医師4名から構成されています。歯科衛生士の役割は、患者さんのお迎え、くすりの指示、術後の食生活の指導、手術のアシスタント、器材の在庫管理・発注などです。インプラント治療におけるマネジメントは、歯科衛生士中心で行っています。

ISO9001を取得、社会貢献は当然の義務

▶▶▶国際標準化機構のISO9001を取得しようと思われたのはどうしてですか。

オーラルフィジシャン育成コースを受講したの

が、きっかけです。経営コンサルタントによる画一的な品質管理システムではなく、医院のオリジナルを作りたいと思いましたので、システム作りはかなりハードでした。品質方針はインプラントと予防が中心ですので、ここでも歯科衛生士がキーになります。システムは歯科衛生士が作り、私が追認しました。問題点を指摘、検証し、行動に移すという流れは歯科衛生士中心で行っています。

▶▶▶患者さん向けのセミナーも行っていますね。

矯正治療ガイダンスセミナーは患者さんの受けがよく、常時5～6名が参加しています。初診の患者さんには、歯科に関する啓蒙教育もしています。また、歯科治療恐怖症の患者さんのために、



★^{こやま}児山ゆかりさん★

(DH歴8年)

鶴見大学短期大学部歯科衛生科を卒業後、歯科衛生士として就職し、静岡の実家に戻ったのをきっかけに当院に勤めて2年半になります。

一連の予防業務を行っていますが、最近は患者さんの予防への意識が高まり、メンテナンスに移行する方が多くなっていると思います。

私の言ったことを患者さんが受け止めて、歯磨きをがんばってくれるとうれしいですし、患者さんといろいろ話せるのも楽しいと思います。予防の大切さを理解して、きちんと来院していただけるとやりがいを感じますね。

歯科衛生士業務の他に、ISOの品質管理責任者をしています。ISO9001では、現在の医院のシステムを確認して、確立できていない部分をきちんと整備していきます。ISOの認証を受けるにあたっては、おもに予防部門と治療部門に分かれて、細部にわたって話し合いました。その結果、医院の全体と個々の目標、患者さんに医院の方針をどのように理解してもらえるかなどのマニュアルができ、するべきこ

とが明確化されました。

ISO取得を通じてもっとも変わったのは、みんなの意識です。流れが明確になっていると診療しやすいですし、患者さんもわかりやすいと思います。現在の状態の把握とその改善、決めたことを続けていくことは難しいですが、治療部門、予防部門、インプラント部門ごとに主任がチェックし、ISO委員会を週1回行い、目標に向かって進んでいます。

麻生院長は熱血漢です。夢とロマンがいっぱいですね。歯科衛生士を認めてくれて、予防に関することは任せてくれます。育児も応援してくれるので、働きやすい環境だと思います。3階は歯科衛生士が話し合い、落ち着いてメンテナンスが受けられるように完全個室にして、きちんと滅菌できるスペースも作りました。患者さんには「すごいわね、歯科医院ではないみたいだね」と好評です。

学会等での発表は、自分にも医院にもプラスになると思います。これからは、予防診療の可能性をスタッフのみんなと一緒に広げていきたいし、ホワイトニングの資格や歯周病学会認定歯科衛生士の資格もとりたいです。そのような肩書きがあると、社会的な職責が向上し、患者さんにもさらに認められるのではないかと思います。



▲3階予防フロアの受付と待合室。雰囲気がいちいちと変わり、シックなイメージ



▲患者のプライバシーに配慮し完全個室でメンテナンスを行う



▲メンテナンスを行う歯科衛生士の宇根根亜希子さん（3階）

保険外になりますが、リラクゼーション外来を設置し、歯科麻酔、無痛治療を行っています。

医院運営が軌道に乗ったら、社会貢献は当然の義務だと思います。社会的弱者にどのように還元していくべきかをいつも考えていて、今後は障害者歯科診療を一手に引き受けたいと思っています。いまは2週間に1回、障害者施設を回って口腔ケアを行っています。当院には、訪問歯科診療専任の歯科衛生士が2名いて、高齢者の歯科診療も行っています。摂食嚥下障害の方の口腔ケアをすると、内科の先生が驚くような効果が出ますね。

歯科衛生士の未来は明るい！

▶▶▶大勢のスタッフとはどのようにコミュニケーションをとられていますか。

どの職種も同等だと思っていますから、院長室も歯科衛生士専用の部屋もありません。同じ医局ですごしています。また、2つのフロアで診療していますので、インカムを使って連絡を取り合っています。スタッフに絶えず目を配ることは、経営者としては当たり前のこと。コミュニケーションは大事ですので、半年に1回、個別面談をしています。説教もしますが、できるだけ尾を引かないことが大切です。仕事に対しては厳しいです。

▶▶▶歯科衛生士のレベルが高いですね。

学会で発表するときは、夜中の1～2時までかけて準備しています。勤務時間中はデューティワークで、終わってからが自分の勉強時間ですが、よく勉強してくれるのでありがたいと思っています

す。2ヵ月に1回、他院と合同でスタッフ全員参加の研修会「歯とワーク」を開催しています。

▶▶▶採用はどのようにされているのですか？

採用の基本条件は、ノートパソコンを持つことと、入社後3ヵ月以内にワード、エクセル、パワーポイントの人並みに使いこなせるようになることです。パソコンは2階に10台以上、3階に6台あり、院内LANを組んでいます。新人教育は、専任の歯科衛生士が教育訓練マニュアルを使って、目標を立てて教えています。

▶▶▶歯科衛生士への期待をお願いします。

歯科衛生士は魅力的な仕事で明るい未来もあり、需要はますます増えていくと思います。歯科衛生士学校には、「世界」をスタンダードにおいた教育を期待したいですね。そうあるべきだと志を高くしてもらいたい。

勉強の意欲があつて夢もある、前向きな歯科衛生士へは積極的にサポートしていきたいです。当院に子持ちの歯科衛生士が3名いますが、子育てしながら仕事をがんばりたいという人のために、子ども1人あたり月1万円の負担で、医院で雇ったベビーシッターが保育園に迎えに行つて、診療が終わるまで面倒をみるというシステムを作りました。長く働ける環境を作るのは当然だと思います。医院の夢としては、将来歯科衛生士学校をもちたいですね。

DHstyle編集部では、当コーナーにふさわしい予防型の歯科医院を募集しております。自薦他薦は問いませんので、E-mail (dhstyle@dental-diamond.co.jp) でお知らせください。